

題 『成長する種』

テキスト：マルコによる福音書4章26～34節

親愛なる皆さん、おはようございます！

今年も修禱館の裏庭にミニトマトを植えましたが沢山実をつけてくれました。毎朝としては頂いています。

今日の聖書の箇所は、イエスさまが話された「成長する種」のたとえと「からし種」のたとえです。

二つとも神の国についてのたとえですが、その理解、解釈は昔からいろいろとなされて来たようです。たとえ話は聞く人によって「受け取り方に違いができてくると言われています。

神の国は、神の支配とも言われます。それは決して暴力的な支配ではなく、愛の満ちた愛の支配なのです。神の国は場所のようなイメージを持つのですが、場所のイメージだけではなく、むしろ関係性のイメージとして受けとめられているのです。

関係性のイメージというのは、人間の中に愛があるという関係です。

主イエスは「実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」（ルカによる福音書17章21節）と言われました。

主の教会のふさわしい人間関係も、互いに覚え合い、祈り合い、時に赦し合うことを大切にすることを大切にしながら歩む人間関係として成長して行くのです。

共に二つのたとえを学びましょう。

◆「成長する種」のたとえ：マルコによる福音書にだけあるたとえと言われています。

26:また、イエスは言われた。「神の国は次のようなものである。人が土に種を蒔いて、

27:夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。

神の国は、種が育つことの中にみてとれるというのです。

このたとえは麦のことかもしれません。

淡路島に住むわたしたちには、日常の中で感じやすい、分かりやすいことと思います。

種を蒔くのは、人です。わたしたちです。種を蒔いて夜が来て朝が来て昼が来るといふ日常の中で、種は芽を出し成長して行きます。種の中に育つ力が

あり、考えてみればとても不思議なことだと思えます。

28:土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてそ

の穂には豊かな実ができる。「土はひとりでに実を結ばせるのであり、」

他の聖書の訳では、「大地は自ら働き」とあります。ともかく、神さまの造られた自然が育てる力を持っているのです。これは驚きです。

「まず茎、次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる。」とあります。

「茎」は、「苗」とも訳されています。「次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる。」と。蒔いた人は育って行くのを見る時、ワクワクする気持ちに包まれるでしょう。

「29:実が熟すと、早速、鎌を入れる。収穫の時が来たからである。」

収穫の時、蒔いた人たちは喜びと感謝に包まれます。

人にも自然にも感謝します。神さまに感謝します。

種を聖書のみ言葉と受け取ってよいと思えます。そうすると教会に関わって来ることです。

み言葉が蒔かれ、祈りがなされ、互いに愛の関係の中で育って行く時に、

いつしか実りの時が神さまから与えられます。その時は、わたしたちが決めることはできませんが神さまが備えられた最善の時なのです。

長年、覚えて祈って来た教会の人々には喜びと感謝が与えられるのです。

「成長する種」のたとえば、神さまへの業への不思議さへの種を蒔いた者たちの喜び、キリストにある群れの喜びに関係するたとえとして受けとめることができるのです。

次は「からし種」のたとえです。このたとえば、神の国の力を教えてくれます。それは凄い力なのです。

30:更に、イエスは言われた。「神の国を何にたとえようか。どのよう

なたとえで示そうか。」と。

初めて聞く人は、イエスさまの話されることにワクワクしながら聞いたのだろうと思うのです。

31:それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上の

どんな種よりも小さいが、

32:蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が

巣を作れるほど大きな枝を張る。」

このからし種の種は、今から約2000年前イスラエルのその地域パレスティナ地方の人々には最も小さな種とされていたのです。

ちなみに「からし種」は、2種類あるそうです。「黒からし種」と「白からし種」です。「黒からし種」は、直径0.95~1.6mmぐらいの種の大きさと重さは1mgほどとのことです。「白からし種」は「黒からし種」のほぼ倍の大きさと言われます。からし種は野菜を漬ける時やあるいは医療にも用いられたとのことです。(現物を参照)

小さな種が土に蒔かれると、どんどん大きく成長して行って、どんな野菜よりも大きくなり、ついには葉の陰に、つまり木に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張るほどになると言われます。だいたい1M~3Mほどにまで成長すると言われます。

わずか1mmほどの種がそんなに大きく成長することに、その成長力に驚き、圧倒される思いがします。これが言われんとすることは、神の国、神さまの愛にはそれほどの力があるということです。とてつもない力があるのです。人知を超える圧倒的な力です。

ある聖書の訳には「どんどん大きく、成長して行って」ということばを、「育つは、育つは、育つは、育つは」とユーモラスに訳しています。とても心に残りました。雰囲気が出る思いになりました。そして育った結果、実が獲れるというだけではなく、「葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」と。

空を飛ぶ鳥たちに、憩いと休みを与えることができるまでになるということです。後に「鳥たち」とは、外国人、異邦人のこととして理解されたこともあるようです。これは自分の属している集団以外の人たちと受け止めることもできます。神の国の働きの力強さとその働きの広がりをも表しているように思えるのです。働きに苦労はあっても、それに勝る喜びも大きく広がるのです。

しかし、ただ広がること、多くなることではなく、主イエスのルカによる福音書17節5節のことばを忘れないでいたと思います。

5:使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、

6:主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言

うことを聞くであろう。と。からし種一粒の信仰が人を生かし救うのです。

わたしたちは、主イエスを通して神さまから信仰・希望・愛という豊かな賜物を与えられています。からし種一粒の信仰を大切にしながら感謝して生きて行きたいと願います。

◆「成長する種」のたとえ

26:また、イエスは言われた。「神の国は次のようなものである。人が土に種を蒔いて、

27:夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。

28:土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる。

29:実が熟すと、早速、鎌を入れる。収穫の時が来たからである。」

◆「からし種」のたとえ

30:更に、イエスは言われた。「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。

31:それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、

32:蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」

◆たとえを用いて語る

33:イエスは、人々の聞く力に応じて、このように多くのたとえで御言葉を語られた。

34:たとえを用いずに語ることはなかったが、御自分の弟子たちにはひそかにすべてを説明された。